

富士見市基本構想策定ふじみ市民会議
第5回 まちづくり環境・建設部会 会議録

日時：平成22年1月28日(木) 午後7時～午後9時20分 場所：市長公室

出席状況

市民会議委員	浅野委員、井上委員、尾形委員、齊藤委員、千種委員、本多委員、柳下委員、山田委員、横田委員（欠席2名）
庁内専門部会員	建設部長、下水道課長、安心安全課長、産業振興課長
事務局（政策財務課）	古屋、平

傍聴者	なし
-----	----

内 容	
1 開 会 事務局	
2 あいさつ 市民会議委員部会長あいさつ	
3 庁内専門部会員 紹介	
4 検討事項	<ul style="list-style-type: none"> ・第4次基本構想の「施策の目標（大綱）」に対する課題整理、今後の方向性について前回に引き続き、これまでの市民会議や庁内専門部会で検討された内容と、市民意識調査や行政水準を踏まえて、大柱ごとの課題整理を行った資料について事務局から説明した後、検討を行い、委員からの質疑への対応や意見交換等を行った。
検討	
第2章 安全で快適に暮らせるまち	
<上水道の整備>	
委 員：	今後の課題で、給水量の減少に伴う収益の減少という記述がある。地球温暖化対策などからみると節水していくという方向になると思うが、この表現だと、収益面ばかりにとらわれて、環境面への配慮が乏しいように感じるが。
専門部会員：	水道事業は独立採算が原則であり、市民の皆さんからいただく使用料金で、県営水道への支払いや、施設の更新等を行っていくことからこのような記述とした。
事務局：	表現方法は調整する。
委 員：	大柱の目標で、水源地域の環境保全に配慮するという記述があるが、市の基本構想で、河川上流の水源地の保全にまで触れる必要があるのか。どちらかという、

理念的なものとするが。

専門部会員：全体の8割を県営水道から確保しており、今後の安定供給という面からも、現状としては維持していく方向である。

事務局：目標への表現が適切かどうか、今後検討していきたい。

< 下水道の整備 >

委員：大柱の目標にある、合併浄化槽などの手法という表現は、農業集落排水という処理方法も含んだものと考えてよいか。

専門部会員：そのとおりだが、市街化調整区域においては一定程度の戸数がある集落以外に住宅が点在する地域もあるため、様々な手法を検討していくということである。

委員：下水管の耐用年数はどれくらいなのか。

専門部会員：約70年である。

委員：そうすると、老朽管は随時更新していかないと、あと30年くらいで耐用期限が到来するということであり、東京などの大都市では下水管の老朽化に更新が追いついていない状況もあるようだ。

< 防災・防犯対策の充実 >

委員：今後は町会の役割として、防災や防犯活動という安心安全への取組みがさらに重要になる。しかし、町会によっては加入率が低いという現状があり、町会未加入者への対応などが難しい。

委員：ワンルームマンションなどは町会に未加入の人が多いのではないかと。防災と防犯の両面で心配がある。

委員：うちの町会では、ワンルームマンションが建築される前に施工者と協議をして、入居者の町会加入をお願いしている。

専門部会員：コミュニティの希薄化が、防災や防犯に限らず、市民に不安を生じさせていると考えられる。

委員：どちらの町会も同じような問題を抱えているが、町会に関する件は、他の部会が担当する内容であることからここまでの議論としたい。

委員：地域にもよるが、町会組織の高齢化により自主防災組織をつくること自体が困難となっている。

委員：水谷東2丁目では特別防災隊と一般防災隊が組織されており、個別の地区において持ち回りで防災訓練を行っており、防災意識は高いと思われる。

委員：諏訪2丁目町会でも、新しく自主防災組織を立ち上げる計画がある。町会同士の連携も重要となってくる。

委員：水害は台風や大雨によるものが多く、ある程度事前に予測が可能だが、地震の場合は予測ができない。被害も甚大になり、新潟中越地震の際は家屋の倒壊により、家財を運び出せない単身高齢者などの問題があった。その他、救援物資、トイレ、ごみ処理等の問題もあり、大多数の人間が被災した場合の救援体制が危惧される。

専門部会員：行政による支援が届くまでは、地域住民同士の助け合いが重要であることから、今後の課題として、自主防災組織については育成支援だけでなく、地域住民組

織等との連携についても含める必要がある。

事務局：今後の課題に加える。

<火葬場・斎場の整備>

委員：火葬場・斎場の整備と運営については、入間東部地区衛生組合を構成している、富士見市、ふじみ野市及び三芳町が公平に負担するものであり、様々な経緯があつて、現在の場所に整備されたことを考えれば、地元住民と組合との協定に基づく周辺環境整備については継続して表現しておいてもらいたい。

事務局：火葬場・斎場の整備自体は終了していることから、大柱として残していくかどうかは今後の検討となる。個別具体的な事業についての表現は、基本計画や実施計画レベルで検討することとなる。

第5章 活気に満ちた産業のあるまち

<農業の振興>

委員：農業の振興ということ言えば、農地を保全するだけでなく、農地を利用して収入を得ている農家が保全されないと難しい。農業だけで生活していくのは厳しい現状がある。

委員：農地法の改正により、農地の所有者以外も農業参加できる体制になりつつある。

委員：練馬区では農家が体験農園を開設し、利用者に対する野菜づくりの講習や道具の貸出しなどを行っており、地域の活性化につながっている。

委員：都市近郊における農業体験は注目されている。飯能市のエコツーリズムは有名だが、行政を含めた連携体制が取れていることでうまくいっている。

委員：歴史や地形、郷土食などを特色とした取り組みをしている自治体が伸びている。

委員：大柱の目標に、有機農法などの農業の展開という表現があるが、現状では有機農法よりも、県が認証している特別栽培農産物（農薬と化学肥料を通常の半分以下に減らして栽培した農産物）の方が普及しやすいのではないかと。

専門部会員：安心して安全な農産物の提供は市民からも求められていると考えており、手法としてその方が効果的であれば取り組みを強化するということも考えられる。

委員：富士見市の稲作は、それぞれの農業者が農業機械を保有して、個別に行っているという状況があり、コストの面で見ると効率的でない部分もある。

<商工業の振興>

委員：市民意識調査における今後の重点施策の順位が、前回17位から今回4位に上がっているのは、現状を何とかしてほしいという市民の意見のあらわれではないか。社会全体で見ても、大型店舗でも軒並み閉店に追い込まれている状況もあり、一度低下した産業基盤を再生させるのは困難である。

委員：個人商店は、地域に密着しており、消費者からすると価格交渉も可能であるなど、大型店舗には無い強みがあるはず。消費者の細かいニーズに応えられるように商業者側のレベルを上げることが重要ではないか。それが個人単位なのか商店会単位なのかはわからないが、今後検討していく必要がある。

委員：市民意識調査での商業の振興に対する不満の理由として、入ってみたいくなるような店舗が少ないという回答が多かったことから、現在実施している一店逸品のような取組みにさらに磨きをかけるなどの考え方が必要ではないか。

委員：その商店街でないと購入できないものとか、何か特化した商品があるとよい。

委員：富士見市は駅が3つあるなど利便性が高い反面、核となるような地区が無い。

委員：商業だけの問題では片付かないのではないか。農商工が連携して取り組んでいかないと今後につながらない。

委員：市民の目を地元に向けるような取組みが必要である。

<観光の振興>

委員：南畑地区では稲作の裏作期間に菜の花やれんげ草を植えている。小さい面積のものが大きく広がれば、人を呼べる観光資源にもなり得るのでは。

委員：寺下の新河岸川沿いのコスモスも徐々に知られてきている。地道な取組みが大切。

委員：ちょっとした情報でも、積極的に発信することにより積み重ねられて資源になる。

委員：昔からあるものを大事にしていけないのではないか。地元の人が地域を顧みる必要がある。

委員：他には無いものを見つけて、それを伸ばしていければいい。簡単ではないが、長い目でみれば観光というものにもつながるのではないか。

<消費生活の充実>

委員：消費者の安心と安全について触れている柱であることから、活気に満ちた産業のあるまちという章には馴染まない。

事務局：庁内の専門部会でも同様の意見が出ており、第5次基本構想での柱立てについては今後の検討の中で方向性を出していく。

<勤労者福祉の充実>

委員：事業所統計にも出てこないような小さい企業もあるはず。保険にも入ることができない零細企業への対策も必要となる。

事務局：次回会議は3月以降に開催予定。日程はあらためて調整する。

5 閉 会